

2023 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070501954		
法人名	有限会社 マエダ		
事業所名	グループホームはなまる	ユニット名	1F
所在地	福岡県北九州市小倉南区中曽根1丁目4-10		
自己評価作成日	2024年2月26日	評価結果市町村受理日	2024年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年4月2日	評価確定日	2024年4月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・個々の入居者のADLに合わせたリハビリ（脳トレ、体力向上のための運動）をケアカンファで協議し、スタッフが毎日課題として取組んでいる。→その結果、体力の向上、維持という効果に加え、ホームの雰囲気明るく、活気あるものとなっている。

・環境整備の一環として、玄関前を四季の花々で飾り、入居者、家族、来訪者また地域の方に喜んで貰っている。

・毎月入居者全員参加のレクリエーションを実施し、その様子を「はなまる便り」で伝え、信頼関係の構築に努めている。

<地域との交流>

・地域の方の傾聴ボランティアを受け入れ、遠足等外出の際には車椅子介助のボランティアを依頼している。

・管理者が曽根神幸祭（市無形文化財）の山笠保存会のメンバーとなったり、また28年度から開始された地域の年配者が集まる月1度の「中曽根ふれあいサロン」に毎回ケアマネが参加して健康相談を実施、地域住民と交流を深めている。その他、校区のゴルフ大会や町内の夜間パトロールに参加している。

※但し、上記の地域との交流は、コロナ禍で神幸祭、ゴルフ大会以外は全て中断している。

・町内の散策の際に入居者とともにゴミ拾いを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホームはなまる”は小倉南区中曽根にあり、1階と2階に2つのユニットがある。開設から20年を迎えており、長く勤務する職員も多く、管理者、ケアマネ（看護師）等を中心に職員は個々の役割（能力）を発揮されている。開設以来、地道に「地域密着」の関係を築いてこられ、コロナ禍で地域行事が中止になる中も少人数で地域を散歩したり、曽根校区ゴルフ大会に管理者が参加し、地域の一員としての交流が続いている。2023年のハロウィンでは、初めて仮装（スーパーマリオ等）をして地域散策を行い、幼稚園児や地域の方が喜んで下さり、3年ぶりに曽根神幸祭が行われ、地域の方々と参加することができた。日々の生活では「ご本人の自己（意思）決定を大切にしたい声かけや寄り添い」を行い、日々の役割を入居者の方々に担って頂き、好きな飲み物などを選んで頂いている。パズル、ちぎり絵、手芸、歌など、それぞれの趣味、レベルに合わせたレクリエーションや散歩も楽しまれている。理念の中の「自信と笑顔」は、入居者・職員ともに向けられた言葉であり、職員個々の「自信」に繋がる取組みを行いながら、入居者の方々が有する能力を発揮して頂いており、家庭的で和気あいあいとした日々を過ごされている。今後も「笑う門には福来る」で、笑顔溢れる日々になるよう、家族、地域の方々と一緒に楽しみを増やしていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域で仲良く、自信と笑顔」を理念として、地域に溶け込んだ運営に努めている。また、入居者、家族はもちろん、訪問者（業者等）にも笑顔で接する様に徹底している。	理念の実践が継続できるように努めている。職員の笑顔と元気な仕事ぶりは素晴らしく、入居者と家族の方々も高く評価して下さっている。理念にある「地域で仲良く」の取り組みで、ゴルフ大会、曽根神幸祭への参加、神社清掃等も行い、玄関には「コロナに負けないぞ!!」「曽根中受験生!! ゴールはもうすぐだ。ファイト!!」等のメッセージを張り出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、コロナ禍の前は町内の文化祭、清掃、避難訓練、お祭り、夜間パトロール、神事等に参加し、地域の住民との交流に努めていた。また地域の幼稚園、小中学校と交流を図り、地域住民のボランティアを受け入れていた。	隣家が多くの花を栽培しており、四季折々の花を届けて下さる。曽根校区ゴルフ大会に管理者が参加し、地域の方々との交流が続いている。2023年のハロウィンでは、初めて仮装（スーパーマリオ等）をして地域散策を行い、幼稚園児や地域の方が喜んで下さった。2023年5月、3年ぶりに山笠保存会による曽根神幸祭が行われ、地域の方々と参加することができた。今後も文化祭に作品（ちぎり絵）を出展するなど、コロナ前の地域交流に繋げていければと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学生、園児をホームに招いたり、中学生の職場体験や地域ボランティアを積極的に受け入れ、認知症介護に対する理解を深めてもらっていた。また26年2月より、「介護相談窓口」を開始する一方、29年度に小学校の「福祉教育」を当ホームで行った。再開したいと切に思う。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーのうち、民生委員や老人会会長ら地域の方々は地域行事に精通しており、様々な行事や神事の説明とともにそれらへの参加を仲介してくれ、大いに役立っている。	北九州市の指導もあり、2023年5月から対面開催をしている。日々の活動を報告しており、「ゴミ拾いにより地域の方々と交流でき、社会貢献による自尊心向上につながり、とても素晴らしい取り組みだと感じました」等の感想をいただいた。「はなまる会会長」が家族代表で出席して下さり、他の家族にも会議資料をお渡ししてしており、労いや励ましのメッセージを頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	こちらからGH協議会の研修会への市担当者の参加依頼や、逆に市主催のワークショップへの参加要請を受けるなど、お互いに協力関係を築いており、今後もこの関係を継続して行きたい。	運営推進会議の書面会議の時から、地域包括の方から丁寧なお返事を頂いており、ホームの取組みを理解して下さっている。管理者が福岡県GH協議会のブロック長を務めており、協議会の研修に市の方（本庁）が参加して下さる。市主催のワークショップ「介護人材をいかに集めていくか」への参加依頼があり、そのワークショップの結果を踏まえたセミナーへの参加を行うこともできた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームが交通量の多い道路に面しているため、安全上の観点からやむを得ず玄関、勝手口に施錠している（ご家族には説明、了解を得ている）。また所内研修にて、身体拘束に対する意識をスタッフ間で共有する様にしている。	身体拘束をしないことは「当たり前」であり、職員は明るく、優しく、入居者の方々の自己決定を引き出す取組みを続けている。「権利擁護」「身体拘束」「虐待」は別々ではなく、セットで考えており、研修等に繋がっている。運営推進会議で身体拘束適正化委員会を行い、虐待防止委員会は職員間で開催予定にしている。今後も委員会の在り方、記録の在り方を検討し、より良い委員会にしていくなかで予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や所内勉強会を通して、職員全体で虐待の無い介護に取り組んでいる。「虐待の糸口は言葉遣いから」をスタッフ間に浸透させている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所内の勉強会で職員が学ぶ機会を持つとともに、権利擁護のポスター、第三者委員の連絡先を玄関に掲示している。権利擁護の内容は多岐にわたるので、様々な事例を勉強会で紹介して意見交換をしていく。	グループホーム協議会や内部研修で権利擁護の勉強会を行い、職員が制度を学ぶ機会が作られている。入居時に家族の状況に応じた制度の説明を行い、入居後も制度の必要性を確認し、必要時は市役所に相談するようにしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約内容の改定時には、その内容につき利用者、家族に口頭、文書で十分に説明し、承諾を得ている。また法改正による加算の追加等がある場合、全家族に家族会および文書にて説明し、同意書を提出して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度家族全員に介護サービスに対するアンケート、家族会での意見交換を実施し、運営に反映している（今年度は中止）。そのほか家族とはは運営推進会議や個別にLINEを通じて意見交換（苦情含む）を行っている。	毎月「はなまるだより」を作成しており、写真も載せている。家族と事業所でLINEグループを作り、迅速に情報共有できるように努めており、LINE利用の無い方は手紙や電話で情報提供している。玄関先での面会を継続しており、終末期等は居室で面会して頂く場合もある。2年に1回（外部評価以外の年）、家族アンケートを行い、要望を伺っている。コロナ以前は遠足に行く時に家族をお誘いしたり、家族会（年1回）で家族交流が行われていた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ感染対策で、全体ミーティングを中断している為、リーダー会議、各ユニットの申し送りにて職員の意見・提案を受けて事業所の運営向上を図っている。また気になるスタッフにはケアマネ、管理者が随時声かけを行っている。	感染対策もあり、両ユニットの移動ができる方は管理者、ケアマネ・看護師に限られており、2023年6月からタブレットを活用し、両ユニットの入居者の情報共有ができるようにしている。個人面談、各ユニットのリーダー会議、申し送りの際に職員の意見を共有している。職員の日々の気づきを集約し、更なる業務改善に繋げており、「はなまる大賞」を授与する機会も継続している。職員の家族状況や都合、資格取得に向けた勤務シフトの調整が行われ、職員同士の助け合いも行われている。	職員個々の成長を管理者等も評価している。今後も職員主体で委員会活動を行い、管理者、ケアマネ等はサポート的な役割を担いながら、更なるレベルアップに繋げていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間に労働条件の不公平感が出ないようにシフト作りに留意している（ただし、様々な家庭環境があるため、理解を得る努力は必要）。また職員間の切磋琢磨を期待し、業務改善のアイデアを出した職員には「はなまる大賞」という賞を与えている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に関して、性別や年齢などを採用基準にはしておらず、定年（65歳）後も勤務希望者はパート職員として継続して勤務してもらっている（現在1名）。また個々の能力に応じて、環境整備や物品購入等の業務を分担している。将来的には外国人採用も視野に入れている。	面接は管理者とケアマネが行い、性格、夜勤や料理の可否等とともに、入居者の方を大事にして頂けるか等を大切にしており、職員の紹介で採用になる方もおられる。資格の有無は問わず、入社前に初任者基礎研修を受講できる機会や、採用後に様々な研修の機会がある。職員個々の能力と特技「レクリエーションや室内の飾りつけ、ケーキ作り、はなまるだより作りなど」を発揮して頂き、職員の勤務希望も大切にされており、働きやすい職場になっている。玄関の看板は英語表記もしており、外国人の採用を前向きに進めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	権利擁護、身体拘束や虐待の無い介護、法令順守などの勉強会の折に、入居者の人権に関する教育を実施している。またややもすれば乱れたり、馴れ馴れしくなりがちな入居者に対する言葉遣いを職員間で戒めるよう指導している。	「人権研修～身体拘束防止と高齢者虐待防止の基本と不適切なケアについて」等の書面研修を行い、職員個々に感想（振り返りと対策等）を書いている。「入居者の方々の大切にすること」「入居者への言葉遣いに注意すること」「入居者の自己（意思）決定を引き出すこと」など、入居者の方々の尊厳、入居者本位の姿勢を重視している。SNS等での個人情報管理も徹底している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前回同様事業所内での第一プライオリティは「コロナ感染対策」で、「外からウイルスを持ち込まない！」に腐心しているため、ZOOM研修、書面研修に頼らざるを得ず、この件に関しては必ずしも十分な対策を講じることができていない。但し前回の外部評価以降、管理者研修1名、実践者研修1名受講した。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前項同様、十分な対策が取れていないが、GH協議会のグループLINEを作り、他の事業所と意見交換を行っている。また令和6年2月7日のGH協議会主催の「行政との意見交換会」で管理者が他の地域の管理者、行政担当と意見交換を行った。		

自己 外部	自己評価		外部評価	
	実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェースシートや聞き取りで、本人はもちろん、家族の希望を取り入れるよう努めている。また人間関係構築のために、本人が何と呼ばれたいか要望を聞き、呼称をきめている。またおやつの際は画一的に飲み物を提供することなく、希望を聞いている。1月に入居した方には本人の希望で晩酌用のビールを提供している。	
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族とLINEの交換を行い、入居後も双方からの要望を伝えあっている（手紙や電話とよりも気楽に相談や連絡ができる）。	
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に趣味、習慣、好き嫌い等を聞き取り、居室の間取りを含め本人が過ごしやすい環境作りに努めている。また日々の申し送りや、担当者会議等で、現状の必要な支援を見極め、迅速に対応している。	
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中、ほとんどの入居者はリビングですごし、スタッフも積極的にコミュニケーションをとるよう努めている。また、可能な方には料理の下準備や掃除、洗濯物たたみなど、簡単な家政を担ってもらっている。	
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方々は、それぞれいろいろな事情を抱えておられるので、一律的な対応にならないよう、家族支援を行っている。また家族とのグループLINEにより簡単な内容の意見交換が行いやすくなった。	
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなかなか実現が難しいが、グーグルアースを利用した疑似旅行体験や出身地の映像を見るのは好評で活用している。	生活歴を把握し、アセスメントに「認知症になる前」「現在」等を分けて記録している項目もある。テレビ画面でグーグルアースを使って、馴染みの場所（実家、学校、出身地の神社や名所等）を見て頂き、とても喜ばれている。家族の訪問もあり、お友達が新茶や梨を持って来て下さったり、職員と一緒に馴染みの神社を散歩している。家族の方と外泊し、お墓参りに行かれる方もおられる。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症に特化したホームであるが故、叫んだり物を投げたりすることもあり、雰囲気が悪化することもあるが、席替えをして生活環境を変えたり、風船バレーやトランプゲームなど数人で参加できるレクを取り入れている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後はご移転先に見舞いに行ったり、仏前にお参りに行く事はあるが、特別なフォローはとっていない。一部の家族とは退去後も年賀状の交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	インテークの際、今まで以上に本人や家族から聴きとるようにしたい。	ご本人の自己決定を尊重しており、8種類の飲み物を書いた用紙を見て選んで頂いている。習慣に応じてビールを提供する方や、ブラックコーヒーがお好きな方は家族と一緒に受診時に飲まれる方もおられる。「図書館に行きたい」という方もおられ、今後もアセスメントの中に「ご本人の要望」を増やし、実践に繋げていく予定である。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・晩酌の習慣がある方（女性）へはビールの提供をしている。 ・前サービス事業者に、利用時の様子などを直接聴きとるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調管理と併せて、食事摂取量や機嫌、睡眠など総合的に把握する様に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアスタッフ、サブリーダー、リーダーが日頃からケアについて折につけ話し合い、リーダー会議に報告して検討している。	ケアマネ（看護師）や職員が、日々の生活の中でご本人と家族の要望を伺っている。各ユニットのサブリーダーと担当職員が観察内容を共有し、リーダー、ケアマネ、全職員と情報交換している。ADL・IADL等を評価しており、課題総括表で「背景要因」「できること」「介助が必要な理由」等を集約し、介護計画に繋げている。2023年6月に導入した「介護記録アプリ」は音声入力もでき、業務の効率化に繋がっている。	①今後もアセスメントの中に、ご本人の要望を記載できる欄を増やし、介護計画の1表「生活に対する意向」と、2表の「ニーズ」「目標」等に繋げていく予定である。 ②2表の右欄に「ご本人」「家族」「職員」等の担当者を記載するとともに、専門用語を控え、わかりやすい表現にしていき、ご本人・家族等の介護計画の話し合いに活かしていく予定である。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	平成5年6月より介護記録アプリを使い、日々の記録を行っている。記録はどのスタッフも見れるので、写真、薬等の情報も共有できるようになった。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩の好きな方には、天気の良い日には積極的に散歩に行くようにしている（その時にゴミ拾いも行っている）。また晩酌も拒否することなく柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の市民センターの文化祭に作品（ちぎり絵）を出展したり、入居者が神事や町内清掃、災害訓練に参加している。また町内に住む傾聴ボランティアが不定期ではあるが、訪問してくれている（ボランティアは残念ながら中断しているが）。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	平成4年9月より提携医療機関を変更した。24時間体制で医療サポートが受けられるようになった。今後もより入居者が適切な医療を受けられるよう支援していきたい。	看護師が勤務しており、月2回の往診を受けている。定期通院は家族が対応しているが、家族の事情で管理者・看護師が同行したり、病院で家族と待ち合わせをする方もおられる。体調変化時は24時間体制で看護師に連絡でき、必要な画像を看護師に送信し、適宜指示を受けている。看護師と家族間で電話（LINE）で情報交換し、主治医の指示も頂いている。職員の観察力もあり、早期対応に繋がっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフに常勤の看護師がおり、適宜適切な受診と看護が受けられる体制を敷いている。加えて、週1回臨時の看護職員が利用者の健康チェックを行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、看護スタッフが病院との連絡を密にし、早期退院に努めている。入院は家族の希望が特にならない場合は、九州労災病院or北九州総合病院を利用している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りマニュアルを作成し、入所の際に家族と、ホームでできること、緊急時の体制につき事前に説明しまた家族の希望を聞いている。また、看取りに関し、提携医の協力を取り付けている。ケアマネージャーには看取りに関する研修を積極的の受講してもらい、所内研修でスタッフにフィードバックしている。	重要事項説明書の看取りの内容を入居時に説明しており、ご本人・家族が希望し、主治医が承諾した場合は、家族と職員と一緒に「その人らしい暮らし」ができるように支援している。嚥下状態に応じてムース食にしたり、ご本人のお好きなもの（甘酒・ゼリーなど）を食べて頂いている。エンシュアのみの方もおられ、覚醒時に24時間かけてゆっくり飲んで頂いている。終末期は家族も居家で過ごされている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍以前は年に2回の防災訓練時に消防隊員の指導の下AEDを使った心肺蘇生の訓練を実施していたが、現在は中断している。来年度から再開する予定。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は地元消防団、消防署の指導の下行っている。地震、水害対策として、火災訓練の際にスタッフに対して消防隊員から講習を受けている。また、同じ中学校校区の有料老人ホームと災害時の避難先として口頭で承諾を得ている。	2023年5月が高潮を想定して曾根小学校まで避難し、所要時間の確認が行われた。2023年10月は地域の方と消火器の取扱い、夜間想定での通報、避難誘導訓練が行われた。災害に備えて懐中電灯、食料（米、味噌、調味料、飲料水等1週間分）、おむつ類を備蓄しており、今後は災害対策担当を中心にBCP（事業継続計画）に基づいた訓練を計画するとともに、消防署と消防団員（格納庫が目の前）との訓練も再開していきたいと考えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの入職時に秘密保持に関する誓約書を交わすとともに、オリエンテーションで指導している。言葉遣いはややもすると馴れ馴れしくなり、そのことが「虐待」の入り口ととらえている為、職員間で戒めて相互で注意している（毎日の「今日の目標」に取り入れることも）。	『言葉遣いの乱れは「虐待」への入り口』であることを、職員間で共有している。排泄は極力トイレで行い、体調等を考慮しながら、起床時と就寝前に寝間着と普段着の更衣を行うように声かけし、同性介助が行える体制も整えている。個人情報の管理も行い、写真掲載の許可も家族に丁寧に確認している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるかぎり自己決定の原則で支援している。例えば飲み物のサービスも画一的にならず、本人の希望を聞いて提供している。また晩酌を希望する入居者には酒類を提供している（健康を損なわない量で）。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「利用者本位」の支援を目指しているが、時として「業務優先」になりがちな時があり、スタッフ間で注意するようにしている。ただ共同生活である以上、要望に全て応えることは難しく、その場合はきちんと入居者に説明して納得してもらうよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活のメリハリをつける意味でも朝夕の更衣・整容（自らできる方、介護が必要な方含め）に気を配り、訪問美容師による整髪を定期的に行っている（今はスタッフが行う）。また、食べこぼし等で衣服を汚した場合は、すぐに更衣して、洗濯をマメにするよう心掛けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に合わせ、料理の下ごしらえ、後片付けを手伝ってもらう一方、食事前には体操、歌、クイズや楽しい会話を取り入れ明るい雰囲気を作る様にしている。。また「ごちそうさまでした」の掛け声に、入居者の輪番制を実施している（画一的にならないように）。	業者から、栄養バランス（カロリー計算）の良い「食材」が届いている。ユニットにより入浴日が異なり、入浴日でないユニットが2ユニット分の食事作りを担当し、嚥下状態に応じてミキサー、トロミ、ムース食にしている。入居者の方々も包丁で野菜（玉ねぎ）の皮むき、モヤシの根取り等とともに、下膳、食器洗い、食器拭き等をして下さる。職員の自宅の庭の「しぶ柿」で干し柿作りを楽しまれ、ツフやフキの皮むき、“つくしの袴”取りもされている。「はなまる夏祭り」では、屋台メニュー（焼きそば、たこ焼き、かき氷等）等も楽しまれている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録アプリを採用し、食事量や水分摂取量がすぐに把握できるようになったため常に水分確保に留意している。また水分確保の為ヤクルトを水で薄める等工夫している。更に入居者の嚥下状態に合わせた食事形態（ミキサー、とろみ）にしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前にはうがい、口腔体操、歌を取り入れ、嚥下がうまくいくように留意し、毎食後の口腔ケアを実施している。うがいができない方には歯磨きティッシュを使用している。夕食後は義歯をポリドントにより洗浄している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はトイレに座り用を足すことを励行している。パット内に排泄してしまっていることも多々あるが、その中で1～2回でもトイレで排泄することがあるので、定期的に誘導している。またトイレのサインを出すこともあるので常にサインを見過ごすことがないように気を付けている。	自立支援を大切にしており、肌触りの良い布の下着を着用できるように努めている。排泄が自立している方もおられ、必要に応じて事前誘導を行い、日中はトイレで排泄されている。夜間のトイレ誘導は覚醒状況を確認し、パッド交換はその時々で最適な方法を考えたケアを行っている。入院中に紙おむつだった方が、退院後にトイレ誘導や歩行訓練を行い、布の下着に戻すことができた方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の体質に合わせた排便コントロール（薬、牛乳、ヤクルト、水等による）を医師と相談して行っている。便秘のひどい入居者には看護スタッフによる摘便も行う場合がある。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1Fと2Fで入浴日を交互にして、希望者は毎日入れる体制にしている。仲の良い人同士やじっくり一人で入りたい人などの希望に沿った支援をしている。また、ADLに関わらず浴槽に入って湯につかることを基本としている。	入浴好きな方が多く、湯船に浸かれる方が多い。女性の入居者が多く、2人で一緒に入浴される方もおられ、できる範囲、ご自分で洗って頂いている。必要に応じて同性介助を行い、2人介助を行う方もおられる。近所の方や家族の方が柚子を持ってきて下さり、皆さんで楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人にあった休息や睡眠をとってもらっているが、部屋にこもりきって昼夜逆転にならないよう声かけをし、なるべく日中はリビングで過ごしてもらっている。またADLの低下に伴ってトイレへの距離が近くなるようユニット内での部屋の引っ越しを行うこともある（家族了承のもと）。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては3重チェックを行い（①夜勤者②日勤者③服薬時のスタッフ）服薬ミス（量、種類）の防止に努めている。また飲みこぼしを防ぐために、完全に飲込むまで確認している。また嚥下、便秘、精神状態等看護スタッフが医師、薬剤師と相談して服薬方法、薬の変更等検討している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力に合わせた家政（掃除、料理下ごしらえ）を担っていただき、またパズル、ちぎり絵、手芸、歌等、それぞれの趣味、レベルに合わせたレクリエーションや散歩により気分転換を図っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの人数の許す限り、温暖な日は交代で散歩に出かけている。また年に数回大型バスを借りて（市の福祉バス）、平尾台、グリーンパーク、買い物ツアー等に出かけていた。またその際は家族、地元ボランティア、中学生に協力してもらっていた。再開を願うばかりである。	朝の申し送りで、その日の目標「散歩に出かける等」を共有し、少人数のグループに分かれ、ご近所を散策している。神社にサクラノボの実ができる桜の木があり、花見を楽しまれている。北九州市の福祉大型バスでドライブに行く機会もあり、町内のゴミ拾いを兼ねた避難訓練も行い、笑顔の写真を便りに載せている。家族とお花見や外食（お寿司、お好み焼き、ハンバーガー等）、買物を楽しめる方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、本人と家族の承諾を得たうえで、原則所持しないようにしている。菓子等購入で入用な時は、ホームで建て替えている。また通販を希望する入居者もいるので、家族の承諾のもと、自由にいただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知り合いに電話するのは原則自由だが、かける際は相手先を確認している。現在携帯電話を所有してる入居者は4名いて、家族等と自由に電話している。一人の入居者に孫4人から交互に手紙が届くので返事を書くよう支援している（拒否されることも多いが）。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前、中庭や2Fのベランダに季節の花を飾り、道行く人や訪問者および入居者の目を楽しませている。またリビングの壁には季節感がわかるような手作りの作品や行事の写真を掲示し、居心地のよい空間となるよう工夫している（幼稚園のような飾りつけは避ける様にしている）。	職員が季節の花を持ってきて下さり、終末期の方の目線にも桜の花等が飾られている。正月の書初めは職員と一緒に書いており、「おいしいものを食べたい」「感謝」等の「書」を掲示している。廊下の一番奥のコーナーも外が見え、気分転換されている。皆さんと一緒に洗濯物をたたみ、食事の準備を一緒に行い、補聴器につける紐を鍵編みで編まれる方もおられる。感染対策も徹底し、6か所の窓を常時5～10cm空け、24時間の換気も行い、冷暖房で調整している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも廊下の奥にくつろげる空間をつくり、気の合ったもの同士で窓の外の景色をながめながらおしゃべりができるようにしている。また、気分転換の一環として、定期的に席替えを行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には、使い慣れた家具や、普段使用していた小物やアルバム、家族の写真等を持ち込んでもらうようお願いしている。また信仰上の品や仏壇を持ち込んでる入居者もいる。	押し入れがあり、ベッドは備え付けで、体調に応じて3モーターの電動ベッドをレンタルできる。筆筒、三段ボックス、テレビ、冷蔵庫を持ち込まれ、冷蔵庫にはプリンやジュース、麦茶を冷やしている。ご自分で描いた塗り絵、折り紙等も飾り、家族の写真や遺影、お位牌、仏壇を持ち込まれている。牡丹桜が見える部屋があり、毎年開花の時期に「女子会（男性も参加）」をされている。職員と一緒に洋服を整理される方もおられる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は余計な家具、配線が無い様に、またリビングは動線が確保できるよう、ソファ、車椅子、歩行器の位置に気を配っている。長い直線の廊下は入居者の歩行訓練を行う為、物を置かない様にしている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				